

F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

特集：想いの継承がもたらすもの



「最初は実感がなく、フィールドで選手が泣き崩れた姿をみて、感動が押し寄せてきました。」そう語るのは、NPO法人アズヴェール藤沢スポーツクラブ（以下アズヴェール）の新代表（理事長）になることが決まった大澤さん。先日クラブの念願であった関東リーグ参入を決めた瞬間について話をすると、その横には現代表の廣井さんの姿が。クラブ発足から約20年、法人化して13年に関東リーグの舞台へあがるその節目の年に、団体内では「代表交代」という大きな出来事がありました。

今回はアズヴェールの廣井さん、大澤さんのお二人に、代表交代がもたらしたと、またそのための準備や大事にしたこと

などを伺いました。

アズヴェールは、フットサルを通じて「人を大切にする」「全力で取り組む」ことを伝えるべく、10個のカテゴリーに300名近いクラブ員を抱え、スクール活動はもちろんのこと、認知症予防の活動や市民まつりや商店街のマルシェといったイベントへの参加、清掃活動など、地域やまちに向き合った活動をしています。長く活動が続けた中で、メンバーが増えていく一方、経営面での厳しさや、どうしてもこだわりを追求するあまり、周りの助けを借りずにきてしまったなど、うまくいくことばかりではなかったと廣井さんは言います。（つづく）



■ 特集：想いの継承がもたらすもの

ここ数年は、何かしら代表として団体にテコ入れをしなくてはという思いと、結果を出し次にバトンを託したい、という思いがせめぎ合っていたなか、交代を決断したきっかけとなったのはコロナ禍の影響を目の当たりにしてから。「このままでは団体の存続すら厳しい、今しかない」と思い、準備期間を考えて半年前に代表を退き、次を任せたいことを伝えたそうです。そんな想いはバトンを受け取る側の大澤さんにも伝わっており、同じようにここ数年、いつ大事な話が来てもいいように心構えをしていたとのこと。組織マネジメントを学んだり地域に積極的に出ていくなどしながら、廣井さんの背中を追いかけてつ常に自らと比較をすることで自分なりの代表像を見極めていったそうです。

交代に向け、半年間の中で定期的に話し合う場を設けることから始め、様々な事を共有し今後の団体運営に向けた意見交換をしたそうです。ただ、「これだけは守ってほしい」とお願いしたことはなかったと廣井さんは言います。団体が大事にしている理念「人を大切に、何事にも全力で」はともに歩んできた13年で共有できているのがその理由だと、お二人がそう話しながら頷いている姿が印象的でした。



新代表 大澤 英昭さん



現代表 廣井 仁さん

お話を伺っていると、代表交代は、今回昇格を決めた大きな要因のひとつにもなっていたことが見えてきます。注目したいのは選手たちに代表が交代することを伝えたタイミング。それは昇格をかけた試合の前だったとのこと。モチベーションが下がってしまうのではないかと。そんな不安もあったそうですが、お二人は口を揃えて言います。「ここで気持ちが下がるようなら、来年度から上のステージで戦うに値しない」「こういった時こそ力を発揮できると信じていた」と。結果この選択は大きな成功を呼び込むことにつながりました。大澤さんと選手たちの間では「廣井さんを胴上げして送り出そう」が合言葉になっていたそうです。追いかける代表から、共に動き力を引き出す代表へ。それを象徴するようなエピソードでした。

想いをつなぎ団体の活動を継続していくために世代交代といった事柄は避けては通れないもの。「自分なりの代表像でやっていく、前代表と同じことはできない」と話す大澤さんからは、お二人がこの交代に至るまでに積み上げてきた年月や想いが伝わってきました。次世代への想いの継承は時間がかかるかもしれませんが。ですが今回の事例では時間をかけて取り組んだ結果、得られた成果は大きいものになりました。先が見えにくい時代だからこそ「想いの継承」に時間をかけてみてはいかがでしょうか。（取材と記事作成：桜井・西尾）

団体紹介

(N)アズヴェール藤沢 スポーツクラブ

設立：2009年4月

問合せ：info@azvert-fujisawa.com
0466-47-7726



藤沢を中心に活動する地域密着型のフットサルスポーツクラブ。

フットサル(スポーツ)を通じて、藤沢に住む子どもたちの健全育成、青年からシニア層の健康の維持増進する活動を行なっています。活動内容は社会人リーグに所属するTOPチームや老若男女が参加するフットサルチームの運営をはじめ、月に一回の清掃活動や地域のイベントへの参加、明治地区と協力しての認知症予防イベント等の実施、ボランティア・インターンの受入れなど多岐に渡ります。

親子向けの体験教室や地域の見守り活動など参加しやすいものから触れてみてもらえたら嬉しいです。生涯を通じてスポーツと一緒に歩む地域活動に参加してみませんか？

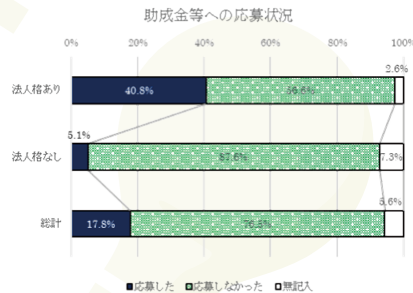


市民活動支援施設では毎年、「調査研究事業」を行っています。2年ごとに市民活動団体の状況調査を行い、その間の年は社会の状況や制度の動きに沿った内容の調査を行います。2020年度の内容は、「with コロナ社会の市民活動状況調査」として、新型コロナウイルス感染症の拡大による藤沢の市民活動団体への影響を調査しました。今回は、調査結果をかいつまんでお知らせします。

【調査期間】2020年11月10日～2021年1月8日
【調査対象】市民活動支援施設登録団体および藤沢市内に主な事務所を置く NPO 法人
【回収数】213 団体 (全 529 団体のうち 40.3%)

全体の傾向としては、活動時間や頻度の減少が広く見られたほか、会員数の減少が 27.2% の団体で見られ、活動が不活性化していることが見てとれます。消毒・マスク

着用などの感染症対策は 11 月時点でかなりの割合の団体で取り入れられていました。その他、団体の性質等により回答の傾向に差異がありました。



・法人格あり、又はスタッフや会員数が多い
実施場所の感染症対策やオンラインでの事業実施など、活動手法の再構築を余儀なくされていました。日常的に事業をしている団体については資金面での影響も大きく、

助成金を申請している割合も高くなっています。

・法人格なし、又はスタッフや会員数が少ない
活動場所（拠点）を失ったとの回答の割合が高くなりました。オンライン会議を実施するスキルを持たない割合も高く、活動が停滞しがちです。反面、元の事業規模が小さい分資金面での影響は大きくない団体が多いようです。

分野別には保健・医療・福祉や子ども分野への影響が大きく見られました。その他、詳細については web 上で公開しています。支援をお考えの方や、団体の状況をお知りになりたい方、QR コードの先をご覧ください。(せ)



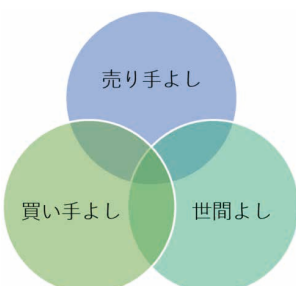
三方よし

「キョウドウ」と聞いて、「共同」や「協同」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。政府がボランティア活動等市民の自主的な活動に大きな可能性を持つと考え始めた15年ほど前から、「協働事業」「協働ステーション」「協働マニュアル」「協働セミナー」「協働コーディネーター」など、「協働」を使った行政と市民の連携に関わる事業が増えています。藤沢市でも2006年から「藤沢市相互提案型協働モデル事業」が始まり、現在の「ミライカナエル活動サポート事業協働コース」の原点となっています。全国では行政の部署として「市民協働課(部)」は90以上存在しますので、市民と行政の協働施策はしばらく続きそうです。というよりも、お互いに力を合わせていく方向は止めることはできない状況なのかもしれません。

昨年度の末から本年度にかけて、神奈川県内3か所の行政職員向け「協働研修」の講師依頼を受けました。その際「共創」という言葉も使ってほしいとの依頼を受けました。横浜市も「共創フロント」という場所を新庁舎内に作り、稼働し始めましたので、興味を持ち、少し調べました。「共創」は「協働」に続く協力関係や連携関係を表す言葉として、主に企業を中心に理念的に使わ

れてきていたようです。「協働」が「ともに力を合わせて実施する」であれば「ともに力を合わせて創り出す」といえるでしょう。協働研修では「協働」もプロセスが重要で、その結果、力を合わせた事業が価値あるものになっていくと説明します。まずは「市民参加」から始まります。その後、「対話」を続け「信頼」「共感」を元に「協働」となります。そして、全てのプロセスを「共創」とまとめることができると考えました。

協働であれ共創であれ、市民活動団体は公共サービスにとって大切なパートナーとなってきていることは間違いありません。しかしながら、行政との協働は、行政に流されがちになる傾向があります。自組織の理念をしっかり守りながら、上手にお付き合いできるように組織のありようを再度確認する必要が出てきました。藤沢市では、ミライカナエル活動サポート事業の募集が5月10日から始まります。説明会は4月20日、22日、24日の開催です。協働する相手の状況と自身の状況をしっかり見極め、受益者となる市民も含んだ「三方よし」となる協働事業を創りあげましょう。(て)



■藤沢市市民活動支援施設の制限付き施設再開	3月22日(月)より	
■プラザdeカフェ「意外に知らないコーヒーのこと」	4月18日(日)	10:00～12:00
■マネジメント講座「そうだったのか。Zoom講座」	5月9日(日)	13:30～15:30
■ミライカナエル活動サポート事業募集説明会	4月20日(火)、4月22日(木)、4月24日(土)	
■ミライカナエル活動サポート事業募集期間	5月10日(月) ～ 5月20日(木)	

NEW!

支援施設からのお知らせ

■施設のご利用制限について

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、藤沢市市民活動推進センターおよび市民活動プラザむつあいでは、ご利用内容を制限しての開館とさせていただきます。

【対象期間】2021年3月22日(月)より

【制限内容】

・市民活動推進センター

①開館時間 9:00～22:00

②会議室利用時間 9:00～21:00

・市民活動プラザむつあい

①開館時間 9:00～19:00 ※通常通り

その他、詳細はQRコードの先よりご覧ください。



■プラザdeカフェ「意外に知らないコーヒーのこと」

フェアトレードコーヒーに興味のある方歓迎です。
淹れ方ひとつですごく美味しいコーヒーになります。ちょっと贅沢に、実際にコーヒーを淹れて、生産地のことを考えてみませんか。
※Zoomでのご参加の方は、コーヒーの淹れ方の解説をしますので、簡単な道具をご用意していただきます。詳しくは、お申込時の返信メールでご案内いたします。

日時：2021年4月18日(日) 10:00～12:00

会場：市民活動プラザむつあい及びZoom上

講師：NPO法人 APLA 寺田 俊氏

料金：無料

対象：どなたでも

問合・申込：市民活動プラザむつあい



■マネジメント講座「そうだったのか。Zoom講座」

Zoomで会議や講座を開催するためのやり方を学習する講座です。インターネット会議特有の作法や講座の開催に必要な機能、適切な設定方法などをお伝えします。

日時：2021年5月9日(日) 13:30～15:30

会場：オンライン

内容：会議・講座の開催方法、基本設定、便利な機能

料金：1000円

対象：NPO・市民活動に興味がある

知識を深めたい個人または団体

問合・申込：市民活動推進センター



■ミライカナエル活動サポート事業の募集について

市民活動提案制度として、「ミライカナエル活動サポート事業」への提案団体を募集します。叶えたい未来の実現のために、ぜひ、ご提案ください。事前のご相談は市民自治推進課、市民活動支援施設で承ります。
※説明会等お申し込みの際は、最新の情報をQRコードのリンク先よりご確認ください。

I “スタート支援コース” 上限20万円

II “ステップアップ支援コース” 上限50万円

III “協働コース” ※令和3年度は審査選考のみ
1年目上限150万円、2年目上限100万円

募集説明会（要予約）：

①4月20日(火) 14:00～

②4月22日(木) 19:00～

③4月24日(土) 10:00～ ※いずれもオンライン（Zoom）上

申請書類受付期間：2021年5月10日(月)～5月20日(木)

お問合せ：藤沢市市民自治推進課

TEL 0466-50-3516 FAX 0466-50-8407

E-mail fj-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp



発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00～22:00 火曜休館

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031 GRAFARE FUJISAWA 2F

※ビル名が変更になりました

TEL：0466-54-4510 FAX：0466-54-4516

Eメール：f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00～19:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX：0466-81-0222

Eメール：f-npoplaza@shonanfujisawa.com

URL：http://plaza6i.f-npon.jp/



編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております。サポーターも随時募集中です！